

2025年度 年次報告書 (アニュアルレポート)

公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト



公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト
〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目1-77
TSURUMIこどもホスピス
TEL 06-6991-9135 FAX 06-6991-9136

2025年度 年次報告書

生命を脅かされる状態(LTC)にある子どもたちにとって、遊びや学びの機会を支える社会資源はまだ十分とはいえません。そのため、病気の子どもやその家族の苦悩は見えにくく、社会から孤立しやすい現状があります。TSURUMIこどもホスピスは、病院と自宅以外に安心して過ごせる場所が少ない重い病気の子どもとその家族のために、2016年に設立されました。病気があっても、子どもと家族が社会の中で前向きに、自分らしく、深く生きられる——そんな社会の実現を目指して、私たちは活動を続けています。2025年度は、以下の事業に取り組み、子どもたちにさまざまなケア活動を届けることができました。

1. こどもホスピスケアの取り組み

(公益目的事業1-(1):対象児と家族のためのホスピスケア事業)

2025年度は、ホスピスに来ることが難しい状況の子どもと家族にもホスピスの時間を届けるため、タクシー、介護タクシーによる移動援助、ご自宅や入院中の病院への訪問を意識的に行いました。利用者が増えていく中で、命の時間が限られている子ども以外にも、病気を持って社会で生活していく子どもとの関わりも増えてきました。そのような子どもたちが社会生活に戻り、社会の中で生活していく課題に仲間とともに取り組む機会として、年齢別プログラムの強化を行いました。定員撤廃後に利用者が急増した後、増加ペースはやや収まっています。

1) 募集要件とエントリー概況

登録者の増加に伴い、利用希望のニーズが多様になり、つながりかたの濃淡が強くなっています。エントリー時に、子どもや家族の状況やホスピスへのニーズを丁寧に聞き取り、優先度などの説明をあらかじめ行うことで、登録後に期待との齟齬が起こらず、それぞれの困窮度に合わせたつながりかたができるように努めています。

【募集要件】

対象: 生命が脅かされる状態にある、0～20歳代の方(重症心身障害の方は、主に0歳～未就学まで)

下記の疾患やそれに類似する状態の子どもと家族は、どなたでも診断時から利用可能としています。

- ・白血病や脳腫瘍などの小児がん(発症後3年以内の方。3年以上経過して再発などで治療中の方も含む)
- ・先天性心疾患などの循環器疾患
- ・13、15、18トリソミーなどの染色体疾患
- ・重度脳性麻痺などの重症心身障害
- ・その他、免疫異常症、臓器不全など

【エントリー概況】

	2024年度	2025年度※1
当年度利用者数①	213	244(40)
内訳)新規登録者数	76	54(7)
再登録者数※2	0	0
継続登録者数	137	190(30)
当年度終了者数②	23	31(3)
内訳)利用終了者	3	11(2)
逝去者数	20	20(1)
翌年度更新者数③＝①－②	190	213(37)

※1 2025年度より、括弧外は登録利用者、括弧内はMeetup利用者

※2 過去に利用登録し、病状軽快により利用を終了をしていたが、再発等により再度利用登録をした人

【登録利用者数】疾患別構成

病態別	2024年度	2025年度※1
小児がん	171	188(0)
循環器疾患	21	30(0)
神経筋疾患	1	2(5)

染色体異常	1	3 (11)
免疫・代謝性疾患	13	14 (2)
重度脳性麻痺等	6	2 (17)
その他	0	5 (5)
合計	213	244 (40)

※1 2025年度より、括弧外は登録利用者、括弧内はMeetup利用者

【登録利用者数】年齢別構成

年齢別(歳)	2024年度	2025年度※1
0-6	100	104 (30)
7-12	73	79 (8)
13-15	18	26 (2)
16-18	15	20 (0)
19以上	7	15 (0)
合計	213	244 (40)

※1 2025年度より、括弧外は登録利用者、括弧内はMeetup利用者

2) 利用実績

デイユースや宿泊で家族の時間をサポートする他、ホスピスへの来館が難しい子どもに対する移動援助や訪問の強化を継続しています。2025年度は介護タクシーの利用の促しによって、医療的ケアが必要な子どものイベント参加を促したり、状況が厳しい中での来館をお誘いできたりしています。訪問は、来館が難しい状態の子どもの病院やご自宅に楽しい時間を届けるほか、訪問看護の時間と合わせて処置への不安や苦痛を軽減したり、きょうだいの気分転換や心のサポートを目的とした訪問など、目的が多様になっています。

週末に実施している宿泊は、より重症度の高い利用者を優先することで、利用数が減少していましたが、直前に空きが出た時に宿泊をご案内するウェイトिंगリストを整備することで、より多くの方に宿泊の機会を提供できるようになっています。

きょうだい児支援団体「しぶたね」から定期的にアドバイスをを受ける機会を設け、きょうだい児への支援視点の強化にも取り組んでいます。2025年度は、当事者であるきょうだいの話から学ぶ「しぶパネル」を開催し、ケアスタッフ、ハウスキープスタッフ、ボランティアが参加しました。

医療機関との連携のための取り組みとして、大阪市立総合医療センターで、病棟に入院中の子どもたちへの遊びを提供するボランティア活動を行っています。ホスピスを利用している子どもの入院中の様子を知るほか、医療従事者との情報交換や、子どもたちや保護者が直接ホスピスのスタッフと会うことで、ホスピスに関心を持ち、安心してつながることができるきっかけ作りの場ともなっています。

利用	2024年度 回数【利用人数(兄弟姉妹、保護者含む)】	2025年度 回数【利用人数(兄弟姉妹、保護者含む)】
デイユース	483【1475】	409【1218】
宿泊	66【318】	80【332】
訪問	106【304】	130【363】
オンライン	63【88】	73【96】
他(弔問、葬儀参加等)	12	24

	2025年度 回数【利用人数(利用者以外の入院患者含む)】
小児病棟での遊びボランティア	12【100】
AYA病棟での遊びボランティア	11【86】

3) 年齢別プログラム、イベントなど

以前より、年齢別のプログラムやイベントを単発で実施していましたが、2025年度に「病気とともに生きる生活の中での課題に、仲間と一緒に取り組む、取り組みを支える」ことを軸に、シリーズ化したプログラムを開始しました。

幼児は、入園や就学前の集団生活の体験や遊び体験の拡充、小学生は闘病生活を経験した仲間との関係作りや闘病生活の中で制限されがちな体験を通して達成感や自己肯定感を持つこと、中高YA世代は闘病を体験した仲間や先輩、様々な大人との付き

合いの中で、自己や将来について考えることなど、それぞれの課題に向けたプログラムを企画、運営しました。また、利用者全体を対象としたイベントを実施しました。プログラムの中では、小学生が縦割りチームで額を寄せ合ってクイズに答えたり、中高生が連絡先を交換したり、次のプログラムでの再会を楽しみにするなど、子どもどうしが「仲間」になっていくプロセスが始まっています。

「Meet up」は、医療的ケアを必要とする重度の障害がある子どもたちが、日常生活の中では難しい体験を、家族とともに楽しめる機会を提供するイベントです。ご家族同士が交流でき、きょうだい児も思いきり遊べる環境や体制を整えることで、ご家族全員が楽しい時間を共有し、安心して体験の幅を広げることを目指しています。2025年度は、地域との繋がりを感じられる環境のなかで家族とのお出かけが楽しめるよう、広場イベント内に安心できる環境と屋外での心地よい体験、きょうだい支援やサポートの人員体制を準備しました。また新たに、家族でホスピスに宿泊する体験をスタートさせました。医療的ケアがあり、自宅以外での宿泊が難しい子どもや家族にとって、ホスピスでのイベントや宿泊の体験は、安心してチャレンジできる機会となりました。

TSURUMIこどもホスピスでは、お子さんが逝去された後のご遺族ともつながりを持っています。現在約100家族とのつながりがあり、ご両親やきょうだい遺児を対象としたプログラムを実施するほか、状況に合わせて、デイユースや宿泊の利用を実施しています。

	2025年度実施回数【参加人数】
幼児プログラム	定期プログラム21回【189名】 他プログラム2回【124名】
小学生プログラム	18回【237名】
AYA世代プログラム	15回【166名】
きょうだいプログラム	1回【5名】
遺族プログラム	8回【112名】
Meet upプログラム	17回【445名】
イベント	13回【925名】

各プログラムやイベントは、ホスピススタッフが中心となって企画、実施するほか、企業やプロフェッショナルの方々のご協力でも実施したものが多くあります。様々な方のご支援を得ることで、年齢に応じた体験を広げ、挑戦する機会、関心のあるものや仲間との出会いの機会、制限が多い生活の中でも家族で楽しむ機会を多彩に届けることができます。

【ご協力いただいた企業、団体】アドベンチャーワールド、絵の本広場、牛乳石鯨共進社、心魂プロジェクト、鶴見緑地パークセンター、日本クリニックラウン協会、日本相撲協会、Fabcafe Kyoto、桜ノ宮ライオンズクラブ、大阪南ロータリークラブ/ローターアクトクラブ、飯田商店、こども専門のおやつ教室おやつクラブ、シャボン玉おじさん、あすか製薬株式会社、友栄食品、ハーレーゴッド、他(敬称略、順不同)

2・こどもホスピスの広場活動としての取り組み
(公益目的事業1-(2)-1: 小児緩和ケアの普及啓発事業地域交流イベント)

こどもホスピスの敷地内にある『あそび創造広場』では、地域のみなさまにもご参加いただけるプログラムやイベントを定期的に関催し、地域全体で小児緩和ケアを実践する場づくりを目指しています。広場では「TSURUMIこどもホスピスアートパーク構想」を新たに展開し、第一弾としてLeandro Erlich(レアンドロ・エルリッヒ)さんによる「Infinite Garden—無限のお庭—」と鴻池朋子さんの「Wolf Bench / Stars & Moon」が登場しました。ホスピス利用者や市民の新たな憩いと学びの場になっているとともに、2作品とも大阪・関西万博との縁があり、万博レガシーとしても親しまれています。

1) 地域向けの様々な取り組み

① 地域イベントとしての取り組み

マルシェイベント「つるしば」、一般見学会の「OPEN HOUSE」を開催しました。

<2025年度 地域向けイベント実績一覧>

イベント名	開催回数	参加者数
つるしば	4回	推定1850
OPEN HOUSE	11回	102

※OPEN HOUSEのうち1回は企業向けに開催

② みんなのホスピスプログラム

● 団体が計58回、参加総数は1412名。2024年度から募集を始めたキッチンカーの出店数が増加しています。

	団体数	利用延回数	参加者総数
--	-----	-------	-------

つるみカフェ&お庭利用(こども)	3団体	11	54
つるみカフェ&お庭利用(子育て)	1団体	7	30
広場利用(チャリティ販売)	10団体	39	1248

3・パブリックリレーションズ(広報)・ファンドレイジングの取り組み

(公益目的事業1-(2)-2.3&3:小児緩和ケアの普及啓発事業地域PRイベント他 & 収益事業1)

1)メディアや学会等における広報・発表、自主的な発信の活動

①メディア掲載・紹介

新たに「TSURUMIこどもホスピスアートパーク構想」が始まり、その取材を多数していただきました。こどもホスピスにアートが必要な理由や寄付者の思いを紹介いただきました。

②自主発信

こどもホスピスの日常を身近に感じていただけるようブログやSNS(Facebook、Instagram、X)で発信を継続しました。また、支援者や関係者にお届けする年刊誌で『TSURUMIN』は、当事者や医療従事者の思いを伝えるインタビュー記事を掲載しました。

③学会発表・講演活動

取り組みを広く知っていただくため、外部講演の登壇や学会発表を行いました。専門職や市民の方々と交流することで、理解の促進と支援の輪の拡大につながっています。

【医療・こどもホスピス関係者向け】大阪母子医療センターQST勉強会、薬剤師会研修、小児緩和ケアネットワークカンファレンス、全国こどもホスピスサミット、宮城こどもホスピスプロジェクト、日本医療保育学会第22回近畿ブロック研究会

【教育機関】滋賀医科大学、長岡崇徳大学、宮城大学

【関連学術集会】家族看護学会学術集会、第8回グリーフ&ビリーブメント学会、第11回小児緩和ケアカンファレンス、第3回日本臨床小児緩和ケア研究会

【その他】H2Oトークショー、松原ライオンズクラブ、三井住友銀行、八尾ロータリークラブ

2)ファンドレイジングの活動

2025年度のファンドレイジング活動では、これまでにつながりを築いてきた支援者の皆さまからの継続的なご支援・ご協力に加え、ホスピスでの一般向け見学会「OPEN HOUSE」を通じて、活動への理解を深めていただく機会を重ねてまいりました。また、本年度は遺贈によるご寄付を多くお寄せいただくなど、新たなかたちでのご支援も広がりました。多くの皆さまからの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

①継続的な寄付基盤の強化【継続寄付】

年度末に次年度のチャリティコンサートの告知を行ったことをきっかけに、マンスリーサポーターの新規登録が増加しました。一方で、毎年ご支援を継続いただいている企業・事業主スポンサーの皆さまについては、昨年度と比較してやや減少する結果となりました。今後もマンスリーサポーターの拡大を重点項目として取り組みを強化し、安定的なご支援の基盤づくりを進めてまいります。引き続き、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- マンスリーサポーター:計1,306名(114名純増)
- 企業・事業主スポンサー:計23団体(合計41口)

②一時寄付の拡大

□個人や法人・団体からの一時的なご寄付【一時寄付(個人・法人)】

関係者の皆さまとのつながりに加え、遺贈や相続財産からのご寄付を多くお寄せいただき、TSURUMIこどもホスピスの取り組みにご賛同いただくかたちで、一時寄付として13,662万円を超えるご支援をいただきました。

□ファンドレイジングイベントによるご寄付:

「雪遊びの夢を叶えたい」クラウドファンディングによるご寄付:

あすか製薬株式会社20周年社会貢献プロジェクト「Wings of Womenクラウドファンディング2025」にて、「雪遊びの夢を叶えたい」をテーマにクラウドランディングを実施しました。目標金額100万円のところ131名・124万円のご支援が集まり、雪遊びイベントを開催することができました。

□各種寄付プログラムによる収入の拡充

- ・社会貢献型自動販売機によるご寄付:8台の設置のご協力をいただいています。
- ・Yahoo!ネット募金を通じたご支援やチャリボン(古本寄贈による寄付支援)を通じたご支援をいただきました。

③地域社会への発信や連携の推進と支援者交流機会の創出

毎月、一般向け見学会「OPEN HOUSE」を開催し、TSURUMIこどもホスピスにご関心をお持ちの方や、ご支援をご検討いただいているみなさまにご参加いただきました。

ご支援いただいている皆さまにホスピスの様子や今後の取り組みをお伝えする機会として「サンクスデイ2025」を、さらに10月には、元利用者のご家族、ボランティア、寄付者、医療・教育関係者など、様々な立場の方々にご参加いただき、「オープンミーティング2025」を開催しました。オープンミーティングでは、これまでの10年をともに振り返るとともに、次の10年に向けてどのようなホスピスでありたいかについて意見を交わす場となりました。

3)新規財源の獲得のための活動:各種助成金の申請

民間の助成金を活用し、コミュニティ型こどもホスピスの創業および基盤強化に関する要点・要件の整理を進めるとともに、その普及に向けた仕組みづくりに取り組むことで、地域における小児緩和ケアの推進に寄与することができました。

・こどもホスピスの人材養成および運営基盤強化(公益財団法人日本財団)

4)事業収入による財源の獲得(収益事業1:キャット端末設置に関する事業)

各店舗等にキャット端末を設置する事業収益として、409万円を得ることができました。

5)寄贈や企画協力によるご支援

企業・団体や個人の方より、様々な企画の協力や現物のご寄付を頂戴しました。また、TSURUMIこどもホスピスの子どもたちの遊びや学び材料や遊具など、希望の品をウィッシュリストに掲載し、ご寄贈(32件)をいただきました。

4.こどもホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、その出会いの可能性を広げることやホスピスの運営面をより円滑に進めていくために、新しいボランティアの形を模索しているところです。

1)こどもホスピスにおけるスタッフ人材育成とボランティアによる活動

(公益目的事業1-(3):ホスピス人材の養成及びネットワーク活動)

①ボランティアの力や各種協力者による活動

ケア活動や中庭・花壇・畑のメンテナンス、ハウスキーピング、イベントの運営補助など、ホスピスのさまざまな日常業務を、多くのボランティアや関係者の皆さまに支えていただきました。また、企業によるイベントや企画寄付、社員参加型の清掃活動など、多方面からのご協力もいただいています。さらに次年度からは、ボランティア向け内部研修を開始し、スタッフとボランティアが一体となったより強固な支援体制を築いていきます。

②こどもホスピスの組織運営に関する基盤強化の取り組み

開業から10年のホスピス実践をもとに、コミュニティ型こどもホスピスの創業・運営に関する知見を整理し、共有する取り組みを本格的に開始しました。TSURUMIこどもホスピスでの創業段階の実践を踏まえつつ、横浜のうみとそらのおうちと連携しながら、創業マネジメントハンドブック作成に向けた研究会(計12回)を開催。また、こどもホスピスの運営の基礎を学ぶ入門研修や創業マネジメント研修、スタッフ実地交換プログラム等を開催し、各地の立ち上げに関心ある方々に幅広い情報を届けながら、運営スキルの可視化と人材育成を進めることができました。今回の成果を踏まえ、こどもホスピスが当たり前にある社会を目指し、各地のこどもホスピスを支える事業を本格化していく予定です(本事業は、日本財団の助成支援により実施しております)。

イベント・プログラム名	開催回数	参加者数
こどもホスピス入門研修	2回	51名
こどもホスピス創業マネジメント研修(報告会含む)	4回	70名
スタッフ実地交換研修プログラム	不定期	12名(延20日)

2)組織運営基盤の強化と財政面について

①法人運営(ガバナンス)の整備

□総会の開催...6/27に定時総会、11/26の臨時総会を、会員全員による決議の省略により開催、審議承認しました。

□理事会の開催...2025年度の新体制のもと、日々の運営を協議しつつ様々な事業を推進できるようホスピスの展開を考えるための理事会の運営を進めました。

開催日	主な審議事項	出席者数
①5/26	2024年度事業・決算承認、2025年度補正予算、管理権限責任者等任命、2025年度総会に関して	6

②9/29	役員の報酬並びに費用に関する規程の改訂	6
③10/30	2025年度上半期報告、第2次補正予算、2024年度事業報告書の修正、賃金規程の改訂	6
④2/26	2026年度事業計画・予算案、2024年度事業報告・財務諸表の修正、収益事業②(物販等)の新設、規程・規則の改訂案、ケア評価委員の推選	5

(2025年度理事・監事)代表理事 高場 秀樹 副理事長 原 純一 常務理事 多田羅竜平
理事 安道 照子 坂下 裕子 山縣 敦彦 監事 奥谷 敏之

□ケア評価委員会の開催(公益目的事業1-(1))

昨年度に引き続き、利用者の承認および利用者受け入れに関する公正さのチェックやホスピスケア全般の質向上を目指した「TSURUMIこどもホスピスケア評価委員会」を計4回実施しました。委員の審議事項は以下の3点です。

- 1) 利用希望者の資格審査および、ホスピス利用者の承認に関すること
- 2) ホスピスケアの実施状況に関すること
- 3) その他、ホスピス利用の運営上、必要とされること

開催日	主な審議事項	出席者数
①5/29	利用者承認についての審議および利用に至らなかったケースの検証、利用動向、相談事項(福祉サービスについて)	7
②8/8	利用者承認についての審議および利用に至らなかったケースの検証、利用動向、相談事項(小児がんの中途障害のお子さんについて)	4
③12/1	利用者承認についての審議および利用に至らなかったケースの検証、利用動向、相談事項(倫理審査について)	7
④3/2	利用者承認についての審議および利用に至らなかったケースの検証、利用動向、2025年度ケア活動の概要報告・2026年度事業計画について、相談事項(AYA世代との関わりでケアスタッフが感じていることについて)	7

(2025年度 ケア評価委員一覧)

清田 悠代 NPO法人しぶたね理事長／囀府寺 美 すずき小児科クリニック／副島 賢和 昭和医科大学保健医療学部教授／多田羅 竜平 TSURUMIこどもホスピス常務理事 大阪市立総合医療センター緩和医療科部長・緩和ケアセンター長／二宮 英一 にのみやこどもクリニック院長／眞利 慎也 NPO法人しぶたねプログラムディレクター／丸 光恵 淀川キリスト教病院 副院長・看護部長／矢野 朋子 大手前大学国際看護学部准教授

②スタッフ&事業運営体制の強化

2025年度は、以下の推進体制で、理事やスタッフ・各推進担当を配置し、ホスピスの運営を進めました。

- ・ケアスタッフ 饗庭真祐美(保育士)、青儀祐斗(理学療法士)、市川雅子(看護師)、川戸大智(保育士)、鈴木康太(教師)、辻ゆきえ(看護師)、西出由実(看護師、PR)、古本愛貴子(看護師)、鎌田晏子(看護師、PR)、木和田亮子(看護師)、山内弥生(保育士)、有元郁代(保育士)、田中愛(ケアアシスタント)
- ・バックオフィススタッフ 岩井弥生、畑 亜紀
- ・ファンドレイジングスタッフ 安在志織
- ・ハウスキープスタッフ 小林喜美子、森 美弥、山本洋子、今西優子、清家 留美子
- 【各領域ディレクション等、推進および助言サポート】
- ・高場秀樹(代表理事、全体推進)・原 純一(副理事、ケア俯瞰)・水谷綾(ホスピスネットワーク、遺贈寄付・ファンドレイジングアドバイザー)・NPO法人しぶたね(きょうだい支援)

③2025年度収支

(千円)		(千円)	
収入		支出	
正会員費	180	事業費	122,790
事業収入	4,357	管理費	11,226
助成金	9,600	設備投資	4,963
寄付金	176,570		
雑収入（受取利息・雑収入）	471		
合計	191,178	合計	138,979

収支差額	52,199
------	--------

※数値は千円以下切り捨て

2025年度（2025年4月～2026年3月） 貸借対照表

(千円)		(千円)	
科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産	115,808	1.流動資産	10,934
2.固定資産		2.固定資産	0
基本資産	0	負債合計	10,934
特定資産	425,027	III 正味財産の部	
その他の固定資産	30,947	1.指定正味財産	425,027
		2.一般正味財産	135,820
資産合計	571,782	負債及び正味財産合計	571,782

※数値は千円以下切り捨て

2025年度(2025年4月～2026年3月) 正味財産増減計算書

(千円)

科目	金額
一般正味財産の部	
I 経常収益	
1.受取会費	180
2.事業収益	4,357
3.受取補助金	9,600
受取補助金(指定正味財産からの振替額)	23,525
4.受取寄付金	80,650
受取寄付金(指定正味財産からの振替額)	59,189
5.その他の収益	471
経常収益計	177,973
II 経常費用	
1.事業費	162,396
2.管理費	12,088
経常費用計	174,485
当期経常増減額	3,488
経常外費用	70
一般正味財産期末残高	135,820
指定正味財産の部	
1.受取寄付金	95,920
一般正味財産への振替額	82,714
指定正味財産期末残高	411,821
正味財産期末残高	560,847

(千円)

4.受取寄付金(一般正味財産)	
マンスリーサポーター寄付	31,045
企業事業主スポンサー寄付	4,200
募金・自動販売機寄付	1,031
その他の寄付	44,373
合計	80,650

(千円)

1.受取寄付金(指定正味財産)	
個人寄付	74,924
企業団体寄付	17,328
Yahoo!ネット募金	468
大阪マラソン寄付	1,989
クラウドファンディング (雪イベントなど)	1,211
合計	95,920

※数値は千円以下切り捨て

さらに詳しい会計報告につきましては、ホームページの「年次報告・会計報告」に決算書(財務諸表)を掲載しておりますので、ご確認ください。